

平成29年度 第1四半期（4月～6月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)対象企業数：354社
 - (3)回答企業数：184社（回答率 51.98%）
- 調査期間
 - 平成29年4月～6月
- 調査方法
 - 往復ハガキによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
 - 製造業88・建設業25・卸売業22
 - 小売業20・運輸業15・サービス業14

全産業業況DI値は前回調査から6.5ポイント改善、平成28年度第1四半期から18.8ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断DI値は▲3.3となり、前回調査（▲9.8）から6.5ポイント改善、平成28年度第1四半期（▲22.1）から18.8ポイント改善した。

来期見通し（7月～9月）については、業況DI値は0.0となり、前回調査（▲9.4）から9.4ポイント改善、平成28年度第1四半期（▲17.6）から17.6ポイント改善が予測されている。

卸売業を除いた5業種でDI値の改善が見られ、とりわけ製造業は右肩上がりで推移しているものの、全業種的に人材確保が慢性化している調査結果となった。

■製造業

業況DI値は13.6となり、前回調査（8.0）から5.6ポイント改善、平成28年度第1四半期（▲15.4）から29.0ポイント改善した。

売上や採算面の改善が進み、4期連続で業況は上向き傾向を示した。鉄工業では、産業機械や自動車関連の需要環境は緩やかな回復基調が続くとの声が聞かれた。一方、水産食品製造業では、原料不足が顕著であり、確保が課題との声が聞かれた。

来期見通しについて、造作材製造業では、住宅着工戸数の増加に期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「生産設備の不足・老朽化」が主に挙げられる。

■建設業

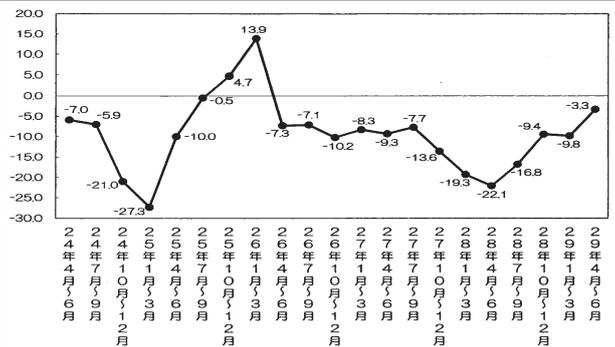
業況DI値は▲12.0となり、前回調査（▲22.2）から10.2ポイント改善、平成28年度第1四半期（▲7.7）から4.3ポイント悪化した。

民間の設備投資や住宅関連工事は堅調に推移しているとの声が聞かれた一方で、公共工事数の減少により、同業他社との競争が激化したとの声も聞かれた。また、国が4月から建設業の社会保険加入を徹底しており、現場職人の人材不足に拍車をかけたとの声も聞かれた。

来期見通しについて、電設業では、夏本番に向けて空調機の伸びに期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点は、「官公庁需要の停滞」、「民間需要の停滞」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

全業種



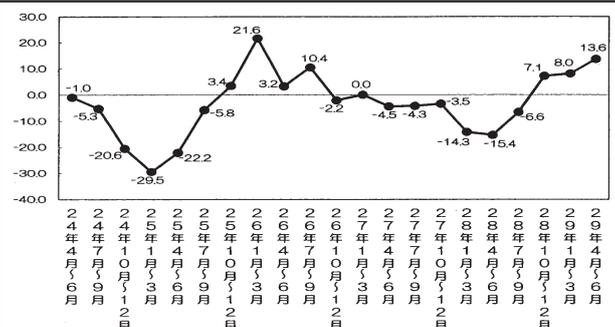
《A》 前年同期（平成28年4月～6月）と比較した景況感

| 良い | 同様 | 悪い | DI値 |
|-------|-------|-------|------|
| 20.1% | 56.5% | 23.4% | ▲3.3 |

《B》 来期（平成29年7月～9月）の景況見通し

| 良い | 同様 | 悪い | DI値 |
|-------|-------|-------|-----|
| 17.0% | 65.9% | 17.0% | 0.0 |

製造業



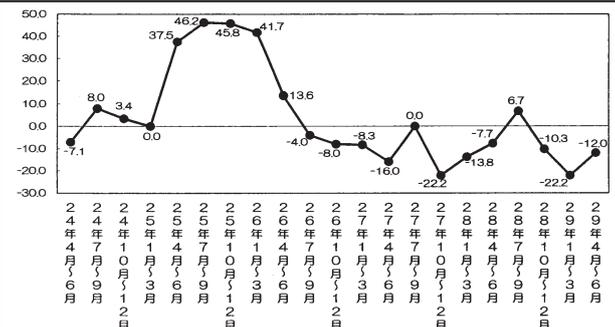
【今期の景況】 平成29年4～6月

| | | |
|----|------|---|
| 業況 | 13.6 | ↑ |
|----|------|---|

【来期見通し】 平成29年7～9月

| | | |
|----|------|---|
| 業況 | 13.1 | ↑ |
|----|------|---|

建設業



【今期の景況】 平成29年4～6月

| | | |
|----|-------|---|
| 業況 | ▲12.0 | ↓ |
|----|-------|---|

【来期見通し】 平成29年7～9月

| | | |
|----|-------|---|
| 業況 | ▲16.0 | ↓ |
|----|-------|---|

■卸売業

業況DI値は▲45.5となり、前回調査（▲30.0）から15.5ポイント悪化、平成28年度第1四半期（▲33.3）から12.2ポイント悪化した。

需要の停滞が在庫増と採算の悪化を招き、業況は低い水準で推移していると窺える。とりわけ、ペット用品卸売業では、高級志向の商品が鈍化傾向にあるとの声が聞かれた。

来期見通しについて、室内装飾品卸売業では、職人不足の影響が長引くと予想され、厳しい状況は続くとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

■小売業

業況DI値は▲20.0となり、前回調査（▲21.1）から1.1ポイント改善、平成28年度第1四半期（▲31.8）から11.8ポイント改善した。

春先に需要の多い業種を中心に業況の持ち直しを牽引した。OA機器小売業では、新年度を迎え、設備投資が増加したとの声が聞かれた。一方、靴小売業では、気温の上昇が例年より遅かったため、春物の動きが鈍く、夏物に切り替えざるを得なかったとの声が聞かれた。

来期見通しについて、衣料品小売業や飲食料品小売業では、夏物の伸びに期待したいとの声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。

■運輸業

業況DI値は▲6.7となり、前回調査（▲25.0）から18.3ポイント改善、平成28年度第1四半期（▲53.3）から46.6ポイント改善した。

製造業向けの鋼材輸送が増加し、業況が改善傾向にあるとの声が聞かれた。一方、東三河地域の公共工事減少の影響により、建設用資材の輸送が減少したとの声が聞かれた。

来期見通しについては、酒税法改正によるビール類の値上がりにより、荷動きの悪化が懸念されるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「運送単価の低下・上昇難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

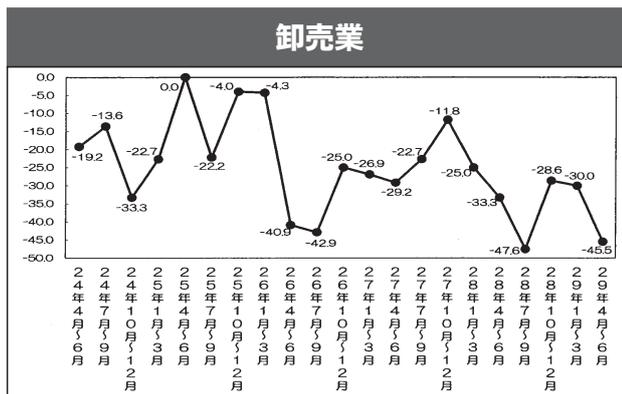
■サービス業

業況DI値は0.0となり、前回調査（▲38.5）から38.5ポイント改善、平成28年度第1四半期（▲26.7）から26.7ポイント改善した。

5四半期ぶりにマイナス値から脱し、来期の業況の見通しも全業種の中で最も高いDI値を示した。旅行業では、伊勢菓子博等のイベントの影響もあり、売上は堅調に推移したとの声が聞かれた。一方、自動車整備業では、競合相手は減少傾向にあるものの、需要の停滞が顕著であり、売上は増加していないとの声が聞かれた。

来期見通しについて、警備業では、人材確保により人件費の上昇を抑えることができれば、堅調に推移するとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられる。

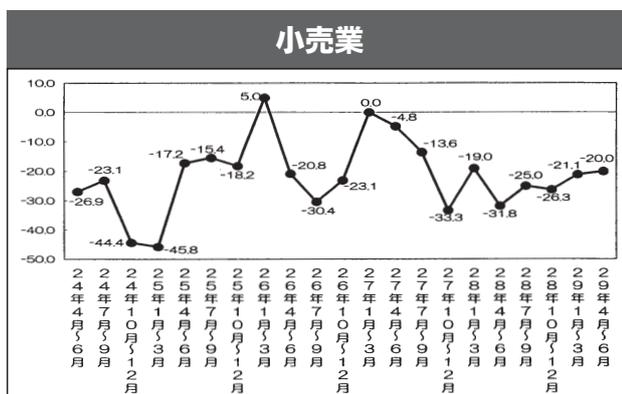


【今期の景況】平成29年4～6月

業況 ▲45.5 ↓

【来期見通し】平成29年7～9月

業況 ▲36.4 ↓

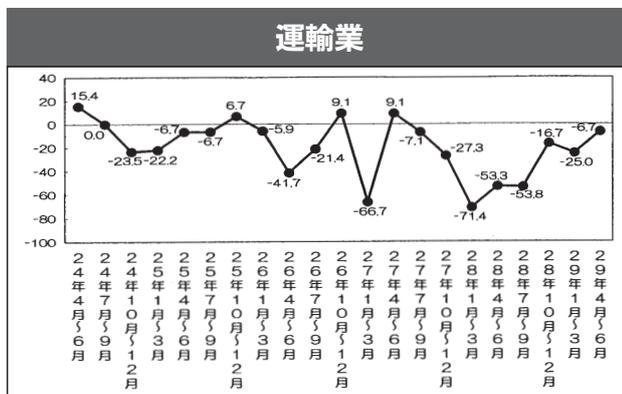


【今期の景況】平成29年4～6月

業況 ▲20.0 ↑

【来期見通し】平成29年7～9月

業況 ▲22.2 ↓

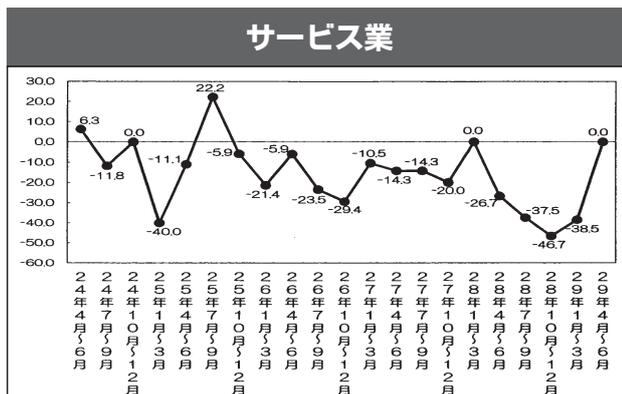


【今期の景況】平成29年4～6月

業況 ▲6.7 ↑

【来期見通し】平成29年7～9月

業況 15.4 ↑



【今期の景況】平成29年4～6月

業況 0.0 ↑

【来期見通し】平成29年7～9月

業況 21.4 ↑